評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

評価結果ダイジェスト

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評 ▼サービス分析結果 ▼利用者調査結果 ▼事業者のコメント

平成19年度　　知的障害者通所更生施設[経過措置]

事業所名称	竹の塚福祉園
評価機関名称	特定非営利活動法人　日本高齢者介護協会
評価者	修了者No.H0401033　修了者No.H0401069　修了者No.H0501068
評価実施期間	2007年11月1日～2008年2月28日

全体の評価講評

詳細はこちらから

特に良いと思う点

- 地域障害者福祉の伝統と社会的責任
- リーダー会を中心とした職員の主体的な取り組み
- 多彩な日中活動といのちの輝き

さらなる改善が望まれる点

- 地域社会にあって個性ある施設に
- クラブ活動の活性化
- 労働環境の悪化に対し職員への配慮を

このページの一番上へ

サービス分析結果

詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A
【講評】詳細はこちら ・アセスメントを行ない課題を明らかにし、個別支援計画が作成されています。そして、週... ・今年度、家族会の場で短期入所事業・居宅介護事業担当者が事業の内容について情報提供...	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】詳細はこちら ・当施設では男女別更衣室の入り口には色分けしたカーテンで目に付きやすく工夫がされて... ・個人のニーズによって行なう「個別活動」は、本人の希望が優先された活動であり、水族... ・男性4，女性2の作業グループで、キャンドル製作をはじめ陶芸、園芸、木工、紙すき、...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】詳細はこちら ・毎日職員の給食に関する意見を日誌に記録し、そのコメントを活用して新しいメニューや... ・特別食の提供(アレルギー代替、軟菜、刻み)などその人に合わせた食事を提供していま... ・明るく清潔な環境、テーブルクロスの食卓、グループによってはCDを聴きながら思い思...	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】詳細はこちら ・1週間の個人記録に基づき個別性を取り入れた、支援計画を作成して、日常生活上の支援... ・支援計画、週間個人記録に基づき、声かけ、手を添える、見守る必要のある方等に働きか...	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A
【講評】詳細はこちら ・内科・歯科・精神科・耳鼻科等協力病院との連携は取れるようになっています。通院等必... ・服薬は災害時用に3日分と予備1日分を施設で預かっています。利用者が毎日持ってくる...	

- 看護師が1回／週非常勤となったため、判断に迷う時は、法人内の他施設の看護師や嘱託...

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている A

【講評】詳細はこちら

- 近くの喫茶店にお茶を飲みに出かけたり、調理を楽しんだり、公園に散歩に行ったり、区...
- クリスマス会や園祭利用者実行委員会などの企画や準備に利用者も参加してます。利用者...
- 家族会でグループ懇談会を実施した結果、利用者の顔写真があると会話が弾むのではと家...

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている A

【講評】詳細はこちら

- 支援員一人ひとりが連絡帳や電話で丁寧に連絡しあって家族と施設が連携を取り支援して...
- 当施設には「家族も利用者」との考えから、家庭支援をはかり家族との信頼関係を大切に...

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている A

【講評】詳細はこちら

- 区内の施設・養護学校のイベント案内、関係機関の事業・イベント案内、チャリティー協...

評点の内容 詳細はこちらから

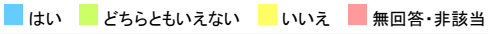
このページの一番上へ

利用者調査結果

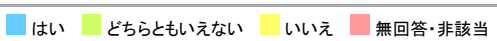
詳細はこちらから

※読み上げソフトをご利用のかたへ
パーセンテージの読みあげは「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「無回答」の順番で読み上げられます。

有効回答者数/利用者総数
33/62



1. 食事の時間は楽しみになっているか	78.0% / 18.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:3.0%
2. 活動は楽しいか	60.0% / 36.0% いいえ:3.0% 無回答・非該当:0.0%
3. 利用者は必要なときに支援を受けているか	60.0% / 30.0% / 6.0% いいえ:3.0%
4. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	48.0% / 42.0% / 9.0% いいえ:0.0%
5. 利用者の気持ちは尊重されているか	51.0% / 42.0% いいえ:3.0% 無回答・非該当:3.0%
6. 職員の対応は丁寧か	84.0% / 12.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:3.0%
7. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望を聞かれているか	90.0% / 9.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
8.【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか	87.0% / 12.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
9.【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	68.0% / 31.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
10. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか	45.0% / 27.0% / 27.0% 無回答・非該当:0.0%
11. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか	51.0% / 39.0% / 9.0% いいえ:0.0%
12. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	72.0% / 6.0% / 21.0% いいえ:0.0%



このページの一番上へ

事業者のコメント

＊以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

福ナビトップへ | サイトマップ | メルマガ登録 | ご意見・ご要望

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団
Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

全体の評価講評

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評　▼コメント

平成19年度　　**知的障害者通所更生施設[経過措置]**

<<前の評価結果を見る　　次の評価結果を見る>>

事業所名称	竹の塚福祉園
評価機関名称	特定非営利活動法人　日本高齢者介護協会
評価者	修了者No.H0401033　修了者No.H0401069　修了者No.H0501068
評価実施期間	2007年11月1日～2008年2月28日

全体の評価講評

特に良いと思う点

- **地域障害者福祉の伝統と社会的責任**
  竹の塚福祉園が所属する社会福祉法人あだちの里は、区内にあって知的障害者福祉に関わる福祉施設として伝統ある大きな法人です。同一敷地内には、入所施設、授産施設、居宅介護事業や短期入所の事業所もあり、区内には授産施設や多くのグループホームなどがあり、大勢の利用者が何時でも何処ででも、さまざまな福祉サービスが利用でき、「地域社会の一員として安心して暮らせるよう」、その社会的責任を果たしてきました。当事業所は法人グループの更生施設として、さらに未来に向けて、大きくその責務を果たすべく活動しています。
- **リーダー会を中心とした職員の主体的な取り組み**
  施設長は施設運営にあたって、中堅職員の集まりであるリーダー会を中心とした組織的活動を強化支援してます。リーダー会もその期待に応え、自主的に施設運営に関わる問題に取り組んでいます。介護や医療分野での専門的なリスク分析手法を研究しリスク対策の検討を行っています。また利用者への職員の権利擁護意識を自己分析チェックシートを採用して、自己評価しグループ討議を行い、相互に意識下の問題点を抽出し各自の気づきの契機となっています。このような職員の主体的な活動の取り組みは組織の活性化と職員の育成に貢献し高く評価できます。
- **多彩な日中活動といのちの輝き**
  当施設では重複障害を含め軽度から重度まで幅広く多様な利用者が、キャンドル製作、陶芸、園芸、木工、紙すき、機織り、ビーズ、アルミ缶の8種類のメニューから、自分の希望や適性に合わせ作業を選択することが可能です。現在男性4，女性2の6作業グループは各10人前後ですが、いずれも、小集団にあって利用者同士が互いに相手を認めあい、和気相合として賑やかで活気に溢れています。施設長はじめ支援員の皆さんが、多様な62人もの利用者の一人ひとりに寄り添い、巧みなメンバー組合わせで絆を作り、個性あるいのちの輝きを見る思いです。

さらなる改善が望まれる点

- **地域社会にあって個性ある施設に**
  利用者は家族と暮らし、施設で日中活動ができて日々満足ということです。しかし、利用者の高齢化以上に、親の高齢化は急速に進んでおり、利用者の将来をどう考えていくかは、いずれ検討しなければなりません。当法人はその社会的使命に照らしても、今後も利用者・家族や地域の人に対し、将来にわたりどのような関わりを持って社会福祉事業を展開していくのか、その展望を示し、各施設もまた自らの個性と主体性を発揮し、何を為すときか、事業課題と計画策定し、開かれた法人として、職員と利用者・家族に理解と協力を求める働きが望まれます。
- **クラブ活動の活性化**
  施設ではグループ集団での、キャンドル、陶芸・園芸・木工等のグループ作業がメインですが、このほかにも個人単位で本人の希望に応じて参加できるクラブ活動(トランポリン、スイミング、リトミック、調理、絵画、カラオケ等)が用意されています。しかし、自立支援法の影響で、個々に担当する職員配置が困難で、利用者皆さんの意向に沿うことが出来ていません。個別支援計画に基づく利用者本位のサービスの提供を旨とすべき、福祉の現場にあって、さまざまな困難があろうと思われますが、利用者の意向に沿った活動が望まれます。
- **労働環境の悪化に対し職員への配慮を**
  ここ数年、利用者の方々は重度化傾向にあり、マンツーマン対応の方が多くなっています。一方、職員の配置の状況については、マンパワーが不足の状態にあり、職員及び利用者に負担や不便が生じています。職員調査においても職員から過重労働に対する改善の声が多数上がっています。昨今の人手不足労働環境の悪化は業界全体問題ではありますが、施設として自ら、業務負荷、残業、休日取得状況等を検討し、改善できることから着手して、職員一人ひとりの心身の状況を把握し、きめ細かな配慮ができるよう、施設経営層の努力が期待されています。

このページの一番上へ

コメント

当施設は62人の大型の通所更生施設です。利用者調査では利用者全員を対象に、アンケート調査を実施することができました。事業評価では新体系移行の過渡期にあって、経営層、職員、利用者のそれぞれの思いや不安の把握に注力しました。

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

組織マネジメント分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼リーダーシップと意思決定　▼経営における社会的責任　▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
▼計画の策定と着実な実行　▼職員と組織の能力向上　▼情報の保護・共有　▼カテゴリー1～7に関する活動成果

平成19年度　　**知的障害者通所更生施設[経過措置]**

<<前の評価結果を見る　　次の評価結果を見る>>

事業所名称	竹の塚福祉園
評価機関名称	特定非営利活動法人　日本高齢者介護協会
事業評価実施期間	2007年11月7日～2008年2月28日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A

【講評】詳細はこちら

- 法人全体及び当該事業所が目指している理念・基本方針(3年後のゴール)を事業計画書…
- 平均10人程度の各グループのリーダーによるリーダー会が組織され、当会が中心となっ…

評点の内容 詳細はこちらから

このページの一番上へ

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	**評点**
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A
3. 地域の関係機関との連携を図っている	A

【講評】詳細はこちら

- 自分たちの職場が法令順守や権利擁護について、どのくらいケアレベルの低下へと向かっ…
- 地域との関係では専門性を活かして当該施設で小学校、中学校の体験学習の場を提供し、…

評点の内容 詳細はこちらから

このページの一番上へ

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	B

【講評】詳細はこちら

- 利用者一人ひとりの意向を取りまとめるため苦情に対する窓口担当者を配置して取り組み…
- 地域及び事業環境に関する情報収集ではアンテナは弱く、21年度に新体系の生活介護事…

評点の内容 詳細はこちらから

このページの一番上へ

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点

1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	A
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	A
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	B
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	**評点**
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	A

【講評】詳細はこちら

- 中期目標（3年後のゴール）を立て、フロアーに掲示し、職員、利用者に周知しています…
- 利用者の安全確保のための取り組みは、法人としてリスク委員会を開催して検討しており…

このページの一番上へ

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	**評点**
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	B
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	A
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	**評点**
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	A
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	A

【講評】詳細はこちら

- 18年度より人事考課制度を取り入れて職員育成に取り組んでいる。当該事業所が必要と…
- 人事考課制度の中で目標達成計画書を作成し、個人の目標についてのヒヤリングを施設長…
- リーダー会の主体的な運営がうまくいっており、職員ひとりに改善意識が浸透し意欲が出…

このページの一番上へ

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	**評点**
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	A

【講評】詳細はこちら

- 情報の保護については職員人事は施設長がPCで管理し、アクセス権限をはっきりさせて…
- 情報の共有化の問題としては常勤と非常勤との時間差勤務があり、非常勤を含めた各種研…

このページの一番上へ

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	**評点**
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A

【改善の成果】詳細はこちら

- 施設長とリーダー会と職員との関係が非常にうまく組織化されており、諸問題の検討をリ…

2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	**評点**
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A

【改善の成果】詳細はこちら

- 常勤と非常勤との時間差勤務の問題を抱えながら、非常勤を含めた内部研修（OJT3回…

3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	**評点**
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A

【改善の成果】詳細はこちら

- 情報の共有という点においては常勤、非常勤を含む各種研修会を通じて前年度より情報の…

4. 事業所の財政等において向上している	**評点**
1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	A

【改善の成果】詳細はこちら

- 自立支援法施行により当該事業所では利用料収入が減少したのでコスト削減の必要性に迫…

5. 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している	A

【改善の成果】詳細はこちら

- 利用者の意向等については利用者アンケートを取り、今年度から活動が活発になったリー…

評点の内容 詳細はこちらから

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

福ナビトップへ | サイトマップ | メルマガ登録 | ご意見・ご要望

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

サービス分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼サービス提供のプロセス項目　▼サービスの実施項目

平成19年度　　**知的障害者通所更生施設[経過措置]**

<<前の評価結果を見る　　次の評価結果を見る>>

事業所名称	竹の塚福祉園
評価機関名称	特定非営利活動法人　日本高齢者介護協会
事業評価実施期間	2007年11月7日～2008年2月28日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供	評点
1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している	A

【講評】詳細はこちら

- 利用者や見学者のため、廊下に活動写真(クラブ、行事、作業など)や職員フェースシー…
- 利用者の問い合わせや見学要望には、常時対応しています。行政機関や近隣の町会には定…

評点の内容 詳細はこちらから

サービスの開始・終了時の対応	評点
1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	A
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A

【講評】詳細はこちら

- 利用開始時には、前所属施設から「利用者プロフィール表」を引き継ぎし、「利用者台帳…

評点の内容 詳細はこちらから

個別状況に応じた計画策定・記録	評点
1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	A
2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している	A
3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	A
4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A

【講評】詳細はこちら

- 年度当初には定例的に前年度総括や新規アセスメントとして、健康・日常生活活動・コミ…
- 個人記録の書式については、支援計画のポイントが日々連動する書式に改善され、点検の…

評点の内容 詳細はこちらから

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	評点
1. 利用者のプライバシー保護を徹底している	A
2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A

【講評】詳細はこちら

- 利用者に関する情報を外部とやり取りをする場合は入所時に承諾書を交わし、事案毎に利…
- 当施設では、自分たちの職場がどのくらいケアレベルの低下に向かっているか、どのくら…

評点の内容 詳細はこちらから

事業所業務の標準化	評点
1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	A
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	A
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	B

【講評】詳細はこちら

- 6つのグループごとに法人マニュアルが備えられており、常勤職員は各自1セット所持し…
- 月1回マニュアル委員会などが開催され、適宜見直し、職員の周知を図っています。この…
- リーダー層は、利用者支援、家族との対応、日常管理業務に多忙な状況ではありますが、…

評点の内容 詳細はこちらから

このページの一番上へ

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A

【講評】詳細はこちら

- アセスメントを行ない課題を明らかにし、個別支援計画が作成されています。そして、週...
- 今年度、家族会の場で短期入所事業・居宅介護事業担当者が事業の内容について情報提供...

2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A

【講評】詳細はこちら

- 当施設では男女別更衣室の入り口には色分けしたカーテンで目に付きやすく工夫がされて...
- 個人のニーズによって行なう「個別活動」は、本人の希望が優先された活動であり、水族...
- 男性4，女性2の作業グループで、キャンドル製作をはじめ陶芸、園芸、木工、紙すき、...

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A

【講評】詳細はこちら

- 毎日職員の給食に関する意見を日誌に記録し、そのコメントを活用して新しいメニューや...
- 特別食の提供(アレルギー代替、軟菜、刻み)などその人に合わせた食事を提供していま...
- 明るく清潔な環境、テーブルクロスの食卓、グループによってはCDを聴きながら思い思...

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A

【講評】詳細はこちら

- 1週間の個人記録に基づき個別性を取り入れた、支援計画を作成して、日常生活上の支援...
- 支援計画、週間個人記録に基づき、声かけ、手を添える、見守る必要のある方等に働きか...

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A

【講評】詳細はこちら

- 内科・歯科・精神科・耳鼻科等協力病院との連携は取れるようになっています。通院等必...
- 服薬は災害時用に3日分と予備1日分を施設で預かっています。利用者が毎日持ってくる...
- 看護師が1回／週非常勤となったため、判断に迷う時は、法人内の他施設の看護師や嘱託...

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	A

【講評】詳細はこちら

- 近くの喫茶店にお茶を飲みに出かけたり、調理を楽しんだり、公園に散歩に行ったり、区...
- クリスマス会や園祭利用者実行委員会などの企画や準備に利用者も参加してます。利用者...
- 家族会でグループ懇談会を実施した結果、利用者の顔写真があると会話が弾むのではと家...

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A

【講評】詳細はこちら

- 支援員一人ひとりが連絡帳や電話で丁寧に連絡しあって家族と施設が連携を取り支援して...
- 当施設には「家族も利用者」との考えから、家庭支援をはかり家族との信頼関係を大切に...

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A

【講評】詳細はこちら

- 区内の施設・養護学校のイベント案内、関係機関の事業・イベント案内、チャリティー協...

評点の内容 詳細はこちらから

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

福ナビトップへ | サイトマップ | メルマガ登録 | ご意見・ご要望

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団
Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細
- 全体の評価講評
- 事業評価結果
  - 組織マネジメント分析結果
  - サービス分析結果
- 利用者調査結果
- 事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果
- 平成20年度評価結果
- 平成18年度評価結果
- 平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 利用者調査結果

利用者調査結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼調査概要　▼調査結果全体のコメント　▼調査結果

平成19年度　　**知的障害者通所更生施設[経過措置]**

<<前の評価結果を見る　　次の評価結果を見る>>

事業所名称	竹の塚福祉園
評価機関名称	特定非営利活動法人　日本高齢者介護協会
利用者調査実施期間	2007年11月7日～2007年12月17日

調査概要

- **調査対象:** 現在通所する利用者総数62人、男性35人女性27人、平均年齢30.6歳、障害程度区分Aは52人，Bは10人，Cは0人。愛の手帳別1度3人，2度56人，3度3人。身障手帳所持者22人。
- **調査方法:** アンケート方式
  全利用者を対象に施設長名にて「第三者評価にて利用者全員を対象にアンケート調査を行います」旨の調査協力の鑑をつけ、用紙を施設から配布し、添付の返信封筒にて郵送回収しました。なお、本人が回答不可の場合は本人意向確認のうえ代筆回答をお願いしました。
- 利用者総数：62人
- 共通評価項目による調査対象者数：62人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数：33人
- 利用者総数に対する回答者割合(%)：53.2%
- 調査項目：共通評価項目

このページの一番上へ

調査結果全体のコメント

日々の施設内活動に関しては、利用者は施設での人手不足のため、支援員は忙しく話がけもしにくいし、対応してくれるかも判らないなど懸念しています。職員の対応は丁寧ではあるが、利用者のプライバシーは守られているか、気持ちは尊重されているかとの問いには「はい」は半分であり、丁寧ではあるが本人の気持ちの傾聴は出来ていないと思われます。個別の支援計画は定められた様式・手順により作成されていますが、マンネリ感を持つ利用者もいます。家族の中には、日中活動等に関する様々な支援の中でも、親が高齢化の為に、連れて行けないような、行事についての外出、園外活動、宿泊行事等の社会体験機会をもっと増やして欲しいとの要望があります。また、福祉に対し行政が年々厳しくなっていると思われ、これ以上子ども達にしわ寄せがこないよう願っているとの声もありました。

このページの一番上へ

調査結果

1. 食事の時間は楽しみになっているか

はい	26人	どちらともいえない	6人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人

【コメント】
・給食があまりおいしくない。　・時々残します。　・いつも完食しています。

2. 活動は楽しいか

はい	20人	どちらともいえない	12人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人

【コメント】
・クラブ活動が楽しい。(複数)　・予算が少ないとのことで以前より外出が少なくなりつまらないです。・重度の方に活動を合わせすぎて動きが少ない。・本人は毎日楽しんで帰ってきます。・活動の時間が短いのが少し残念です。・放課後活動とか取り入れていただきたい。・活動はどうしても同じ流れのなか過ごしている毎日です。

3. 利用者は必要なときに支援を受けているか

はい	20人	どちらともいえない	10人	いいえ	1人	無回答・非該当	2人

【コメント】
・言葉でうまく話せません。　・身綺麗にしてくださってます。・職員が代わったとき助けてもらえるかなと心配なことがある。・重度で手のかかる方が多いのであまり助けてくれているようには思えない。

4. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか

はい	16人	どちらともいえない	14人	いいえ	0人	無回答・非該当	3人

【コメント】

・写真の掲示や氏名を載せることへの一応の許可はとっているが、当たり前のことをアンケートとしてくる。 ・わかりません。

5. 利用者の気持ちは尊重されているか

はい	17人	どちらともいえない	14人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人

【コメント】
・職員不足でそこまでは無理です。 ・利用者本人の気持を尊重して行動してくれています。

6. 職員の対応は丁寧か

はい	28人	どちらともいえない	4人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人

【コメント】
・○○さんと呼び、やさしく接してくれます。・楽しく過ごしていて、やさしく接してくれています。・重度の利用者の対応に対して職員の皆様に頭が下がります。・丁寧ではあるが本人の気持ちのくみ取りは出来ていない。

7. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望を聞かれているか

はい	30人	どちらともいえない	3人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人

【コメント】
・毎年同じような目標・計画では進歩も努力も感じられません。 ・一段、一段と希望の見えるような目標を示して欲しい。・個人面談で聞いてくれます。・親の視点からみると少し一日のリズムがゆっくりで、もう少し個人に合わせたプランになるといいのですが。

**8.【個別の目標や計画について説明を受けた方に】
個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか**

はい	27人	どちらともいえない	4人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人

【コメント】
・何年いても同じような感じがします。

**9.【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】
サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか**

はい	11人	どちらともいえない	5人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人

【コメント】
・分かるような説明がありました。

10. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか

はい	15人	どちらともいえない	9人	いいえ	9人	無回答・非該当	0人

【コメント】
・職員はいつも忙しそうで、個人的なことで時間をとらせるのは申し訳ない。・時間がないので気軽には話できません。・ゆっくり話す機会をもっと増やして欲しい。

11. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか

はい	17人	どちらともいえない	13人	いいえ	0人	無回答・非該当	3人

【コメント】
対応したいのでしょうが、現状では出来ていません。 ・話しは聞いてくれるがどうなのか？・職員によって異なる。・親切で信頼できる人方もいればなかなか障害を理解していただけない方もいますので、いつも同じ状態で対応していただけるよう希望します。・支援員の不足が心配です。

12. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか

はい	24人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	7人

【コメント】
第三者委員名ははじめて知りました。 ・知っていますが今まで相談したことがありません。

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

福ナビトップへ | サイトマップ | メルマガ登録 | ご意見・ご要望

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団
Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

リーダーシップと意思決定

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講　評

法人全体及び当該事業所が目指している理念・基本方針（3年後のゴール）を事業計画書に記載し、施設のホール、各フロアー、各活動室、職員室に貼り出しおり、職員会議では読み合わせ、確認を行っています。利用者や家族にも事業計画を配布し適宜周知しています。

平均10人程度の各グループのリーダーによるリーダー会が組織され、当会が中心となって、運営上の課題や提案を月1度以上開催し検討し、施設長に上げています。今年度よりー般職員・リーダー（中堅職員）・施設長の3層のフラットな組織になり、意思疎通が良くなったと職員にも好評です。ただ、6時間勤務の非常勤職員が、朝礼・夕礼に不在であることから、周知が不十分になり、今後、連絡事項の欠落から、活動に伴う事故等リスクを抑える管理体制が必要であるとしています。

このページの一番上へ

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A	
標準項目	○	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○	重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み		

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A	
標準項目	○	経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	○	経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み		

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A	
標準項目	○	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	○	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	○	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

福ナビトップへ | サイトマップ | メルマガ登録 | ご意見・ご要望

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

経営における社会的責任

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講　評

自分たちの職場が法令順守や権利擁護について、どのくらいケアレベルの低下へと向かっているかを自己評価する、ユニークな「ケアレベル低下度チェック」を取り入れ、法令順守の理解が深まるよう取り組んでいます。第三者評価を17年度から行っており、結果を家族会、広報誌、事業報告書で明示しています。第三者評価の実施の目的などが周知され運営改善に活かしていこうとの機運が生まれています。

地域との関係では専門性を活かして当該施設で小学校、中学校の体験学習の場を提供し、特に小学校では1回45名計90名近い生徒に福祉教育を本年度は行っており、障害者とのふれあいを体験するなど、社会的責任を果たしている点が評価されます。

このページの一番上へ

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点	A	
標準項目	○	福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	○	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
A+の取り組み		

2-1-2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点	A	
標準項目	○	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	○	透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
A+の取り組み		

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点	A	
標準項目	○	事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
	○	地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
A+の取り組み		

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点	A	
標準項目	○	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している
	○	ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
	○	ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
A+の取り組み		

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評点	A	
標準項目	○	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
	○	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

福ナビトップへ | サイトマップ | メルマガ登録 | ご意見・ご要望

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講　評

利用者一人ひとりの意向を取りまとめるため苦情に対する窓口担当者を配置して取り組みを明確にしています。家族会の意向に対しては、リーダー会を中心に分析し・評価して、適宜対応し問題解決をはかっています。

地域及び事業環境に関する情報収集ではアンテナは弱く、21年度に新体系の生活介護事業へ移行するための情報収集の必要性を事業者は感じています。法人として、新体系推進準備委員会を立ち上げ、地域福祉ニーズを踏まえた新体系移行に向けての準備を進めています。

このページの一番上へ

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A	
標準項目	○	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
	○	利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取り組み		

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
	○	事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
	○	利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取り組み		

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	B	
標準項目	○	地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
	○	福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
	×	事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

計画の策定と着実な実行

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講　評

中期目標(3年後のゴール)を立て、フロアーに掲示し、職員、利用者に周知していますが、中、長期計画としては事業課題と改善策不足と思われます。また短期の活動についても年度の事業計画に基づいて月次の事業計画が推進されるよう計画の整合性が必要と思われます。

利用者の安全確保のための取り組みは、法人としてリスク委員会を開催して検討しており、必要に応じて職員会議でリスクマネージメントの面から事例分析の一つであるSHELL分析を取り入れハード・ソフト・環境・人的等総合的視点に基づき、事例を検討し、再発防止および予防対策を行っています。職員の中で問題のある時はみんなで検討する体制ができているとの認識があるので取り組み姿勢として評価できます。リスクに対する職員間の温度差は、常勤と非常勤の時間差勤務による情報共有の難しさからくるものであり、今後の課題としてあげられます。

このページの一番上へ

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点	A	
標準項目	○	理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	○	年度単位の計画を策定している
	○	短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み		

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点	A	
標準項目	○	課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	○	課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	○	計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
	○	計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
A+の取り組み		

4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点	B	
標準項目	○	計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	×	計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	×	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している
	×	計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
A+の取り組み		

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	○	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
	○	再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

福ナビトップへ | サイトマップ | メルマガ登録 | ご意見・ご要望

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

職員と組織の能力向上

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講　評

18年度より人事考課制度を取り入れて職員育成に取り組んでいる。当該事業所が必要とする人員は不足しており法人の企画調整会議で各施設の職員欠員状況を把握して、募集採用を行っているが、職員の適材適所には至っていない。そのため各現場で過重労働が続いているので、職員から業務改善や就業状況改善要求が出されている。人手不足は業界全体の問題ではあるが非常勤の採用、人材派遣の検討、賃金アップの検討等、法人の最重点課題として取り組む問題と思われます。

人事考課制度の中で目標達成計画書を作成し、個人の目標についてのヒヤリングを施設長が実施し、年度初めには研修計画をたて質の向上を目指しているが、人員不足により質の高い支援が行いないとの職員の声がある。しかし、人事考課の一つとなっている月毎の行動基準書は、自らの支援、行動を自己評価するものであり、そして、これを主任、施設長に上げることによってフィードバックされ、自ら支援の振り返りの指針となっていると思われる。

リーダー会の主体的な運営がうまくいっており、職員ひとりに改善意識が浸透し意欲が出てきいてます。事業評価でも大変職員の満足度・評価が高いです。

このページの一番上へ

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	B	
標準項目	○	事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	○	事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	×	適材適所の人員配置に取り組んでいる
A+の取り組み		

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	○	職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している
	○	個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている
	○	職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	○	職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A+の取り組み		

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	○	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	○	職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
A+の取り組み		

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている
	○	就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる
	○	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	○	福利厚生制度の充実に取り組んでいる
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

情報の保護・共有

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講　評

情報の保護については職員人事は施設長がPCで管理し、アクセス権限をはっきりさせています。その他利用者情報、各種会議録等は紙ベースでファイリングして書棚に施錠管理しています。現在は職員全員にPCはなく一部の活用に留まっていますが今後は全員にPCを持たせて情報の管理、事務作業の効率化を図っていくことを課題に挙げています。IT化については法人全体の予算の問題で費用対効果から難しいと思いますが、アクセス権限をしっかり管理すれば、情報の管理、作業の効率化の点で効果が期待できます。

情報の共有化の問題としては常勤と非常勤との時間差勤務があり、非常勤を含めた各種研修会を開催し強化してフォローしているが、通常業務の中での情報の共有が課題となっています。今後も社会全体の非常勤化への傾向は激しいので時間差勤務を前提として当該事業所もITツール(PC・携帯電話他)等各種ツールを使った情報の共有化の研究・検討が望まれます。

このページの一番上へ

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	○	収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している
	○	保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み		

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

評点	A	
標準項目	○	事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	○	個人情報の保護に関する規定を明示している
	○	開示請求に対する対応方法を明示している
	○	個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

福ナビトップへ | サイトマップ | メルマガ登録 | ご意見・ご要望

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

カテゴリー1～7に関する活動成果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

評点	A
改善の成果	施設長とリーダー会と職員との関係が非常にうまく組織化されており、諸問題の検討をリーダー会で行い、それを施設長に挙げています。リーダー会の意識が向上し、職員の活性化につながっていると思われます。また法人の使命、基本姿勢等について毎回職員会議で確認し合うことによって、職員の意識が上がっています。

このページの一番上へ

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

評点	A
改善の成果	常勤と非常勤との時間差勤務の問題を抱えながら、非常勤を含めた内部研修(OJT3回・リスク研修・てんかん研修・トランポリン取り扱い研修等)を数多く行い能力向上面を強化しています。施設で利用者本位のサービスを担う職員を育てるために用いられる自己チェックシート(ケアレベル低下度チェック)を取り入れて、職員の気づきの意識を向上させていることは評価できます。

このページの一番上へ

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

評点	A
改善の成果	情報の共有という点においては常勤、非常勤を含む各種研修会を通じて前年度より情報の共有は出来ていますが、職員の声では通常勤務時における常勤、非常勤との情報交換の不足の指摘がありますので、更なる検討が望まれます。

このページの一番上へ

8-4-1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

評点	A
改善の成果	自立支援法施行により当該事業所では利用料収入が減少したのでコスト削減の必要性に迫られ、職員の非常勤化をはかり人件費を削減し、利用者行事の経費を見直をすることによって、収支バランスの改善をはかりましたるる

このページの一番上へ

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している

・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

評点	A
改善の成果	利用者の意向等については利用者アンケートを取り、今年度から活動が活発になったリーダー会で取り上げ検討をして、職員会議に報告、実行されています。

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

サービス情報の提供

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講　評

利用者や見学者のため、廊下に活動写真(クラブ、行事、作業など)や職員フェースシートを掲示しています。

利用者の問い合わせや見学要望には、常時対応しています。行政機関や近隣の町会には定期的に広報誌を配布して施設の活動内容を紹介し、地域の人たちとの交流の広がりを促しています

このページの一番上へ

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A	
標準項目	○	利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	○	利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	○	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○	利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

サービスの開始・終了時の対応

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講　評

利用開始時には、前所属施設から「利用者プロフィール表」を引き継ぎし、「利用者台帳」を作成し、心身・健康面、歩行等の情報を把握して、サービスの継続性の確保に配慮しています。

このページの一番上へ

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A	
標準項目	○	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	○	サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	○	サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み		

このページの一番上へ

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A	
標準項目	○	サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	○	利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	○	サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	○	サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

個別状況に応じた計画策定・記録

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講　評

年度当初には定例的に前年度総括や新規アセスメントとして、健康・日常生活活動・コミュニケーション等個人毎の主要な支援項目に関し、それぞれ取り組み課題、支援目標、支援内容を盛り込んだ個別支援計画を定めています。6ケ月後の年度中間点でモニタリングを行っています。

個人記録の書式については、支援計画のポイントが日々連動する書式に改善され、点検の際も効率化され、職員間の情報の共有化につながっていますが、日々観察を要するポイントと月間で観察するポイントを分けて、もう一工夫する必要があるとしています。

このページの一番上へ

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A	
標準項目	○	利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
	○	利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	○	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A	
標準項目	○	計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	○	計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
	○	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している
	○	計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している
A+の取り組み		

このページの一番上へ

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A	
標準項目	○	利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある
	○	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み		

このページの一番上へ

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点	A	
標準項目	○	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
	○	申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

福ナビトップへ | サイトマップ | メルマガ登録 | ご意見・ご要望

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講　評

利用者に関する情報を外部とやり取りをする場合は入所時に承諾書を交わし、事案毎に利用者及び家族に同意を得ています。
また、プライバシーの配慮として、更衣室のドアの内側にカーテンをつけ、ドアを開けた際に中が見えないようハード面の環境を整えています。

当施設では、自分たちの職場がどのくらいケアレベルの低下に向かっているか、どのくらい権利侵害に陥る危険性があるか、20項目にわたる詳細な自己チェックシートに基づき自己評価を行い、その支援方法をグループで確認しています。また、冊子「見直そうあなたの支援を」を職員会議で活用するなど、利用者の個人の尊厳、価値観やプライバシー保護等の理解、虐待防止意識の向上となる真摯な研鑽をしています。

このページの一番上へ

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	A	
標準項目	○	利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、利用者の同意を得るようにしている
	○	日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している
	○	利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A	
標準項目	○	日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)
	○	利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
	○	虐待被害にあった利用者がいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている
	○	利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

事業所業務の標準化

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講　評

6つのグループごとに法人マニュアルが備えられており、常勤職員は各自1セット所持し、いつでも見開きして活用出来るよう配慮されています。

月1回マニュアル委員会などが開催され、適宜見直し、職員の周知を図っています。この様な取り組みによって、業務の一定水準が維持されてきていますが、職員には一定レベルの知識や技術を学ぶ機会を設けたり、指導者や先輩等に相談し助言・指導を得る事が少ないとしています。23名の職員のうち、13名が「さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保しているか」の問いに対して、「いいえ」と答えています。

リーダー層は、利用者支援、家族との対応、日常管理業務に多忙な状況ではありますが、一般職員に対し中堅職員として、より対話を深める必要があるとしています。

このページの一番上へ

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	A	
標準項目	○	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	○	手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
	○	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
	○	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み		

このページの一番上へ

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	A	
標準項目	○	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
	○	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
	○	職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み		

このページの一番上へ

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	B	
標準項目	○	打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
	×	職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
	○	職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
	○	職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
	○	職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成20年度評価結果
平成18年度評価結果
平成17年度評価結果

サービスの実施

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している

講　評

アセスメントを行ない課題を明らかにし、個別支援計画が作成されています。そして、週間個人記録にはこの個別支援計画にある課題が連動した書式となっています。また、状態が変化した場合は、直ちに見直しをして計画を変更しています。6ヶ月ごとのモニタリングの実施を行っています。支援計画に基づき、日々の支援では、例えば難聴の利用者に対し、指文字・絵カード・食事の写真などコミュニケーションのとり方に工夫がなされています。

今年度、家族会の場で短期入所事業・居宅介護事業担当者が事業の内容について情報提供したことにより、利用者にとってサービスの選択肢が増えました。これにより家族の介護負担の軽減と利用者の自立がより促進されることが期待されます。

評点	A	
標準項目	○	個別の支援計画に基づいて支援を行っている
	○	利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
	○	自立生活に必要なさまざまな情報を提供している
	○	必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講　評

当施設では男女別更衣室の入り口には色分けしたカーテンで目に付きやすく工夫がされています。男女別少人数編成の実施は特性も考慮して日中活動、更衣や排泄などの一連の動作に対し職員の目が行き届きやすくなりました。

個人のニーズによって行なう「個別活動」は、本人の希望が優先された活動であり、水族館へ行ったり、動物園へ行ったり、また、健康ランンドに行く風呂好きな方もいます。また、週1度午前中の施設でのクラブ活動は、生活の質や、体力向上を図る為、トランポリン．ダンス．絵画など魅力ある6種類のクラブ活動が用意されていますが、職員不足から利用者の希望や特性でサービスを選択できない状況にあります。自立支援法の影響と感じている家族もいて、経営層も活動内容を見直す必要があるとしています。

男性4，女性2の作業グループで、キャンドル製作をはじめ陶芸、園芸、木工、紙すき、機織り、ビーズ、アルミ缶の8種類のメニューから、自らの希望や適性により作業選択が可能です。10人前後の小集団による作業活動には、利用者同士互いに相手を認めあい理解しあい、和気相合として賑やかで活気が溢れています。サービス提供にあたり、施設長はじめ支援職員の皆さんが、利用者一人ひとりの性格や個性を良く把握して、多様なメンバーをうまく組み合わせ明るい活動につながっています。

評点	A	
標準項目	○	日中活動メニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている
	○	利用者が活動しやすい環境を整えている
	○	利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している
A+の取り組み		

このページの一番上へ

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

講　評

毎日職員の給食に関する意見を日誌に記録し、そのコメントを活用して新しいメニューや組み合わせを変えるなど給食に反映させ、定期的に家族会を対象に給食試食会を実施し好評を得ています。

特別食の提供（アレルギー代替、軟菜、刻み）などその人に合わせた食事を提供しています。訪問時も魚から肉に交換されていた方や家族からの連絡帳を元にその日の朝に口頭で依頼できるなど、利用者の状態に応じて即対応できるよう配慮をしています。

明るく清潔な環境、テーブルクロスの食卓、グループによってはCDを聴きながら思い思いに会話を楽しんだり、音楽が流れるゆったりした気分で食事時間を楽しまれています。職員は利用者に「美味しいね」と声かけをしています。

評点	A	
標準項目	○	利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している
	○	利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている
	○	食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

講　評

1週間の個人記録に基づき個別性を取り入れた、支援計画を作成して、日常生活上の支援を行っています。

支援計画、週間個人記録に基づき、声かけ、手を添える、見守る必要のある方等に働きかけをしたり、時間を要しても待つ姿勢を持ち、自立に向けた支援を心がけています。

評点	A	
標準項目	○	利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている
	○	必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講　評

内科・歯科・精神科・耳鼻科等協力病院との連携は取れるようになっています。通院等必要な場合は基本的には家族対応になっていますが、家族との通院が困難な利用者には同行することもあります。園で発熱や発作等体調を崩した場合には活動を中止して様子を見ます。体調の変化で急変した場合には、嘱託医の指示を仰ぎ受診することもあります。利用者の体調に関しては、家族からも昼間園で行って欲しいことを聞く等、互いに連絡帳や口頭で情報交換し個別の状況に応じて対応がなされています。

服薬は災害時用に3日分と予備1日分を施設で預かっています。利用者が毎日持ってくる分は空袋を持ち帰るようにして、施設独自のマニュアルを作成するなどの工夫をしています。

看護師が1回／週非常勤となったため、判断に迷う時は、法人内の他施設の看護師や嘱託医に速やかに連絡して対応しています。また法人内の看護師連絡会には、施設長が看護師の代理として出席して、情報を共有しながら利用者の健康管理に努めています。ただ更生施設であることから週5日の看護師配置が望まれ、利用者調査でも常勤看護師がいないことで、不安があるとの声があがっています。

評点	A	
標準項目	○	健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている
	○	必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている
	○	服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている
	○	利用者の体調変化（発作等の急変を含む）に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講　評

近くの喫茶店にお茶を飲みに出かけたり、調理を楽しんだり、公園に散歩に行ったり、区の作品展に路線バスを利用して外出したりするなど、グループ活動・個別外出等多様なプログラムが用意され、利用者の自主性を尊重した取り組みがなされています。

クリスマス会や園祭利用者実行委員会などの企画や準備に利用者も参加してます。利用者の行事参加記録は廊下に写真で掲示してあります。

家族会でグループ懇談会を実施した結果、利用者の顔写真があると会話が弾むのではと家族会からの要望があり、早々に利用者・スタッフの紹介の冊子を作りご家族に配布して要望に応えています。

評点	A	
標準項目	○	行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
	○	室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
	○	日常の生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考にして見直しをしている
	○	利用者等が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようなしくみを整えている
	○	行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講　評

支援員一人ひとりが連絡帳や電話で丁寧に連絡しあって家族と施設が連携を取り支援しています。

当施設には「家族も利用者」との考えから、家庭支援をはかり家族との信頼関係を大切にする姿勢がうかがわれます。一方、家族会も施設の運営に対して深い理解、関心を示しており、この度の調査でも「最近の施設では宿泊や園外活動・外出行事が少なくなったが、親の方は高齢化して、遠方に連れて行かれないのでかわいそうだ」「自立支援法の関係でしょうか、宿泊予算の問題で楽しさが半減しており、場合によっては、自己負担でもよいのではないでしょうか」など、積極的に協力する姿勢がうかがわれます。

評点	A	
標準項目	○	家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
	○	利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている
	○	必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み		

このページの一番上へ

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講　評

区内の施設・養護学校のイベント案内、関係機関の事業・イベント案内、チャリティー協会からの相撲・バスケット観戦、コンサート・サーカスの招待等、必要に応じて利用者が地域の資源を活用し、体験できるよう情報提供しています。今後も利用者の生活の幅を広げ、地域の中で暮らすことが出来るよう、施設の中での社会生活支援の強化が期待されます。

評点	A	
標準項目	○	地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
	○	必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み		

このページの一番上へ

▲このページのトップへ

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせはこちらから
財団法人東京都福祉保健財団
Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.